

12月定例記者会見 会議録概要

2020（令和2）年12月3日（木）午後2時～
市役所本庁4階 庁議室

1. 市長からの発表

新型コロナウイルス感染症の第3波と言われ、11月中旬から現在にかけて、全国で感染者数が大幅に増加しました。伊賀市内でも1日に7人から9人の感染者が確認されるなど大変増えてきています。私たちは自分自身や大切な人を守るために、これまで以上に気を付けていかなければなりません。

これから年末年始を迎えるにあたり、3密を避けていただくとともに、感染リスクが高まる5つの場面に気を付けていただきたいと思います。

現在、差別をなくす強調月間で、明日からは人権週間が始まりますが、新型コロナウイルス感染症に関わり、いわゆる「コロナ差別」といわれる人権侵害が市内でも多く報告されています。

感染者やその家族などに対するいじめや誹謗中傷、特に子どもたちのいじめは、憂慮されることであります。また、感染場所などを特定してネットに上げてしまうこともあります。誰もが感染する、かかる可能性があります。私たちが戦うのはコロナウイルスであって、こうした人権侵害や差別は許されないことです。

みんなでコロナに立ち向かい、大事な人そして自分自身を守り、みんなで乗り切りたいと思います。

（1）「年末挨拶及び年頭訓示」の形態変更について

先の3期目の就任の折には、コロナ禍もあり、市幹部職員を対象に限られた人数での就任挨拶とし、その様子を庁内のパソコンを通じ職員に伝えたところでした。

これまで「年末挨拶」は、年内業務の最終日に午後から各支所などを訪問し挨拶を行った後、夕方には本庁で幹部職員を集めて行っていました。また、年始は部長、次長、支所長などの市幹部職員を本庁の会議室に集め訓示を行っていました。

この度、これまでの形態を変更して「年末挨拶」及び「年頭訓示」を収録した動画を職員事務用パソコンで視聴できるようにして、定刻に集合しなくてもよいようにしたいと思います。

そうすることによって、コロナ禍で職員が集まるという感染リスクが高まる場面を避けることにもなります。ひいては、長期の休暇取得など「働き方改革」にもなると考えています。

(2)「伊賀市浄化センター『さらら』が竣工しました」

平成 29 年から、汚泥再生処理センターの建設を進めてきましたが、この度、新施設が完成し、12 月 12 日に竣工式を行うこととなりました。新しい施設の愛称は、公募で応募いただいた中から「新しく生まれ変わる、さらさらとした水になるイメージである『さらら』」に決定しました。

これまで、青山地区を除く伊賀市のし尿処理は、合併前の上野市ほか 4 か町村環境衛生組合が建設した 2 つの処理場で処理を行ってきましたが、施設の老朽化や処理施設の運営の効率化が緊急の課題となってきました。新施設は、処理施設を一本化し、青山地区も含めた市内全域の処理をする施設となります。

この施設は、し尿などを微生物の働きによって分解し、汚泥と処理水をろ過膜で分離することで、汚濁物質を除去する、「膜分離高負荷脱窒素処理方式」を採用しており、放流水量の削減や汚濁物質濃度の低減を図ることができます。

また、この施設の特徴として「リン回収設備」を備えており、貴重な資源であるリンを回収した後は、民間業者で加工され肥料として再資源化されます。最新の設備を導入することで、放流水は法規制値より厳しい自主規制を満たすほか、騒音や悪臭など公害防止にも万全を期しており、生活環境の負荷の軽減につながっています。

(3) 2020 (令和 2) 年度 伊賀市ふるさと応援寄附金 (ふるさと納税) の寄附状況について

伊賀市では、市のファンづくりの一環として、ふるさと納税制度を活用して「伊賀市ふるさと応援寄附金」を広く募集するとともに、返礼品を通じて伊賀の特産品の PR 等に努めてきました。

これまでも、「ふるさと納税ポータルサイト」による寄附受付や多様な決済方法の導入など、インターネットを活用した寄附拡大に取り組み、また、市内の事業者や生産者を訪問し、それぞれの自慢の商品を登録していただけるよう返礼品の充実を図ってきました。

これらのことから、今年度における伊賀市の返礼品登録数は、昨年度より 195 品増え 432 品となり、さらに 10 月からは、これまでの 5 つのポータルサイトに加え、「ふるさとプレミアム」というサイトからの受付も開始しました。

その結果、11 月 30 日時点では、今年度の伊賀市ふるさと応援寄附金の合計件数が延べ 5 千 7 百 7 5 件、金額が 2 億 6 千 6 百 1 7 万 9 千円となり、すでに昨年度 1 年間の合計を大きく上回る寄附をいただいています。

返礼品では、地域の特産品である伊賀牛、伊賀米、伊賀酒、伊賀焼、伊賀くみひもなどが人気です。

伊賀市のふるさと納税が大きく伸びているのは、返礼品が年々充実してきていること、つまり協力事業者の皆さんが伊賀ブランドの事業などを通じて、産品そのものの魅力向上に取り組んでいただいていることが大きな理由だと思えます。

その結果として、ファン拡大の機会と捉えている「ふるさと納税制度」で全国の多くの方々に伊賀市が選ばれているのだと思います。

皆さんからの寄附金は、大切に活用させていただき、引き続き伊賀市の魅力を全国に発信するため、取り組んでいきますので、今後とも応援よろしくお願いたします。

(4)「伊賀市忍にん赤ちゃん子育て応援特別給付金事業」の実施について

一昨日の本会議で補正予算を認めていただいた「伊賀市忍にん赤ちゃん子育て応援特別給付金事業」として、今年4月28日から来年3月31日までに生まれた子どもがいる世帯の子ども1人につき10万円を支給いたします。

これは、感染拡大の終息の見込みが見えない中、国の特別定額給付金の対象とならなかった子どもがいる世帯への経済的支援として行います。

年内に給付ができるようにするためにも12月1日の本会議終了後、対象者へ申請書を送付しました。

年内に給付を受けるには、12月7日までに届いた申請は、12月18日に給付、その後、12月18日までに届いた申請は、12月25日に給付を予定しております。以降、順次給付をしていきますので、申請期限の令和3年5月31日までにお忘れのないよう申請をお願いいたします。

主な質疑応答の概要

【2020（令和2）年度 伊賀市ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）の寄附状況について】 【税金等の納付方法の利便性向上について】

記者：伊賀市のファンが増えたから寄附金が増えたということですが、寄附金額が増えたら、市が財源の一部として使う分が増えるということですか。若しくは、寄附金額が増えたけれども、その分負担も増えて、財源となる分が少なくなるということはありませんか。仕組みを教えてください。

総合政策課：事業者の返礼品の代金や、ポータルサイトなどの委託料の分もあるため、満額入ってはきませんが、寄附金が増えたら市に入ってくる分も増えます。減ることはありません。

記者：ふるさと納税は、収める方法はすごく充実していますが、これは他市から伊賀市に対してです。しかし、市民が（税金・水道料金等を）納付する際は、オーソドックスな方法しかなく、例えばカード決済等もなかなか進んでいない状況です。他市ではそういったことも進んでいますが、納税する側の利便を高める考えはいかがですか。

市長：DX（Digital Transformation）の時代になりましたので、事務の見直しや整理を含めやっていくのが当然の話ですし、「伊賀市デジタルトランスフォーメーション

(DX) 推進本部 (仮称) もつくっておりますので、何をどうしていくのか、その個別業務だけではなく、そうした相応しい方法に変えていくということです。

記者：返礼品に追加したドライブレコーダーやシーリングライト等は、市内に関わるものですか。

総合政策課：いずれも市内の事業所です。シーリングライトはパナソニックです。ドライブレコーダーはセルスター工業です。

2. 12月の主な行事予定

(1) 自衛隊による上野公園高石垣雑木伐採作業の実施

日時 12月7日(月)～11日(金) 午前8時30分～午後4時

場所 上野公園内(伊賀市上野丸之内 106-3)

内容 自衛隊の協力を得て上野公園高石垣の雑木伐採を行う

担当 建設部 都市計画課(電話 0595-22-9731)

(2) 「人権を考える市民の集い2020」の開催

日時 12月6日(日) 午後1時30分～

場所 伊賀市文化会館(伊賀市西明寺 3240-2)

内容 第1部 人権作品市長賞受賞者表彰式、市長賞作文朗読

第2部 人権講演会「誰もがもっている多様な性：LGBTをとおして考える」

講師：中京大学教養教育研究院教授 風間 孝さん

トークゲスト：加納 克典さん・嶋田 全宏さん

担当 人権生活環境部 人権政策課(電話 0595-22-9683)

(3) 「2020 人権の集い」の開催

日時 12月5日(土) 午後1時30分～

場所 青山ホール(伊賀市阿保 1411-1)

内容 ライブ&トーク「両側から壁をこえる おとなが楽しそうに生きていなければ、子どもも楽しいわけがない」

講師：大阪市立大池中学校 PTA おやしバンド 古川 正博さん

※参加には事前申込をお願いしており、11月27日(金)に締め切り済です。

当日の申込受付はありません。

担当 青山支所 振興課(電話 0595-52-1112)

(4) 人権啓発パネル展の開催

日時 各会場により異なります(詳細は別紙をご覧ください)

場所 本庁・市民館等

内容 「2020年度 人権作品受賞作パネル」、「ありのまま、ここで生きる～障がいのある人の視点から社会を見つめ直す～」、「部落差別解消推進法」

担当 人権生活環境部 人権政策課(電話 0595-26-9683)

(5)「2020年度 郷土の歴史夜咄会」其の28 の開催

日 時 12月18日(金) 午後6時～午後7時30分
場 所 ハイトピア伊賀5階 多目的大研修室
内 容 藤堂藩研究と久保文武
講 師 地域誌「伊賀百筆」編集長 北出 楯夫 氏
担 当 伊賀市上野図書館(電話 0595-21-6868)

(6)伊賀市本庁舎市民ミニギャラリー(12月展示)

日 時 12月1日(火)～12月25日(金)
午前8時30分～午後5時15分(市役所の開庁時間に準ずる)
場 所 伊賀市本庁舎4階 市民ミニギャラリー
内 容 風景写真会(駒田直哉^{こまだなおや}さん、西秀樹^{にしひでき}さん、宮田彰士^{みやたあきお}さん)
写 真 9点
作者メッセージ:「風景撮影を中心に活動しています。」
担 当 企画振興部 文化交流課(電話 0595-22-9621)

(7)子育て相談広場「にんにんパーク」事業の開催

日 時 12月13日(日)・1月10日(日) 午前10時～午前11時30分
場 所 上野南公園「にんにんパーク」内(伊賀市ゆめが丘七丁目13番地)
内 容 12月13日(日)にんにんマラソンの術
1月10日(日)ビニール袋で凧を作って凧あげをしようの術
担 当 健康福祉部 こども未来課(電話 0595-22-9665)

主な質疑応答の概要

【「自衛隊による上野公園高石垣雑木伐採作業の実施」について】

記 者:自衛隊の協力を得て高石垣に繁茂する雑木の伐採を行うことは、自衛隊の業務ではないように思いますが。

市 長:訓練です。